

特別支援委員会

委員長 雪岡 雅

カンガルーシップ活動助成金事業

多様性を理解し、共に生きる意味を知り、心の成長を促す為、「理解」「共生」「就労支援」「ネイバーサポート」の4つの助成金事業（総件数 61 件、前年 39 件）を実施した。各学校園での取り組みに有益に活用していただいた。

全国大会特別支援部会

筑波大学附属大塚特別支援学校の柘植校長に「インクルーシブな教育や社会に向けて～保護者と教師へのエール」をご講演いただき、参加者全員でグループディスカッションでは多様な切り口で話し合った。

全国大会記念品展示

18 校から 60 品目の作業製品を提供され、実物と写真を掲示。作業に取り組む生徒の姿を動画で紹介。大会参加者へは記念品として作業製品を配布。

全国大会でのクッキー・福祉事業所製品の販売

昨年度につづき、高知大学が障がい特性に適した雇用の場として特別支援学校敷地内に立ち上げた菓子工房「hocco sweets」のクッキーを筑波大学附属大塚特別支援学校の生徒が販売。卒業生の通う福祉事業所『工房ワカギリ：筑波大塚』『おおぞら園・あけぼの園：千葉特支』の製品を販売。特別支援学校及び卒業後の就労先への関心を持っていただいた。

就労支援キャンペーンの実施

障害者就労推進企業・障害者雇用に関心のある企業の情報提供を附属校関係者へ依頼。61 件の情報があり、全附 P 連として各企業様等にアクセスし、次年度に向けた課題を整理した。

あいサポート運動

鳥取県と全附 P 連で『あいサポート運動』の連携協定を締結した。和歌山大学附属中学校で『あいサポート運動の授業』、全附 P 連理事向けに『あいサポーター』『あいメッセージ（講師）』の研修を実施した。

国立大学附属特別支援学校に関する勉強会

附属特別支援学校の公共性向上を目指し、各県単位で『仮称：特別支援地域連携センター』を立ち上げる為、準備会合を含み計 3 回の勉強会を実施。